



Seirios

例えば
彼方の星を
愛でるような

始まりはそういう
類の執着だった

なんとかギアは
殲滅できたようだ

……みてえだな

しかしだ、道から
外れてしまったようだ
どこだろうな

場所のせいかな
通じないようだ

オイ
メダルで連絡は
とれねえのか？

坊やといると
ロクなことが無えな

とりあえず
街道の方まで
出りや何とか
なんだろう

うん

しかし方角も
わからないのでは
遭難しかねないぞ

んなもん
星を見りや
わかるだろうが

星を？

今の時期なら
オリオン座がある方……
あつちが南になる

星座の知識なんて
不思議な方面に
学があるんですね

ケンカ売ってんのか
テメエは

まさか!
褒めている
んです

私を知っているのは
殺し方ばかりだ

敵と……そして味方を
効率よく殺す方法

星の名前なんて
ひとつも知らない

ソル!

あの星
あのひと際
明るい星の名を
知っていますか?



シリウス

全天で一番の
明るさを誇る星だ

語源は
「セイリオス」

焼き焦がすもの
という意味だったか

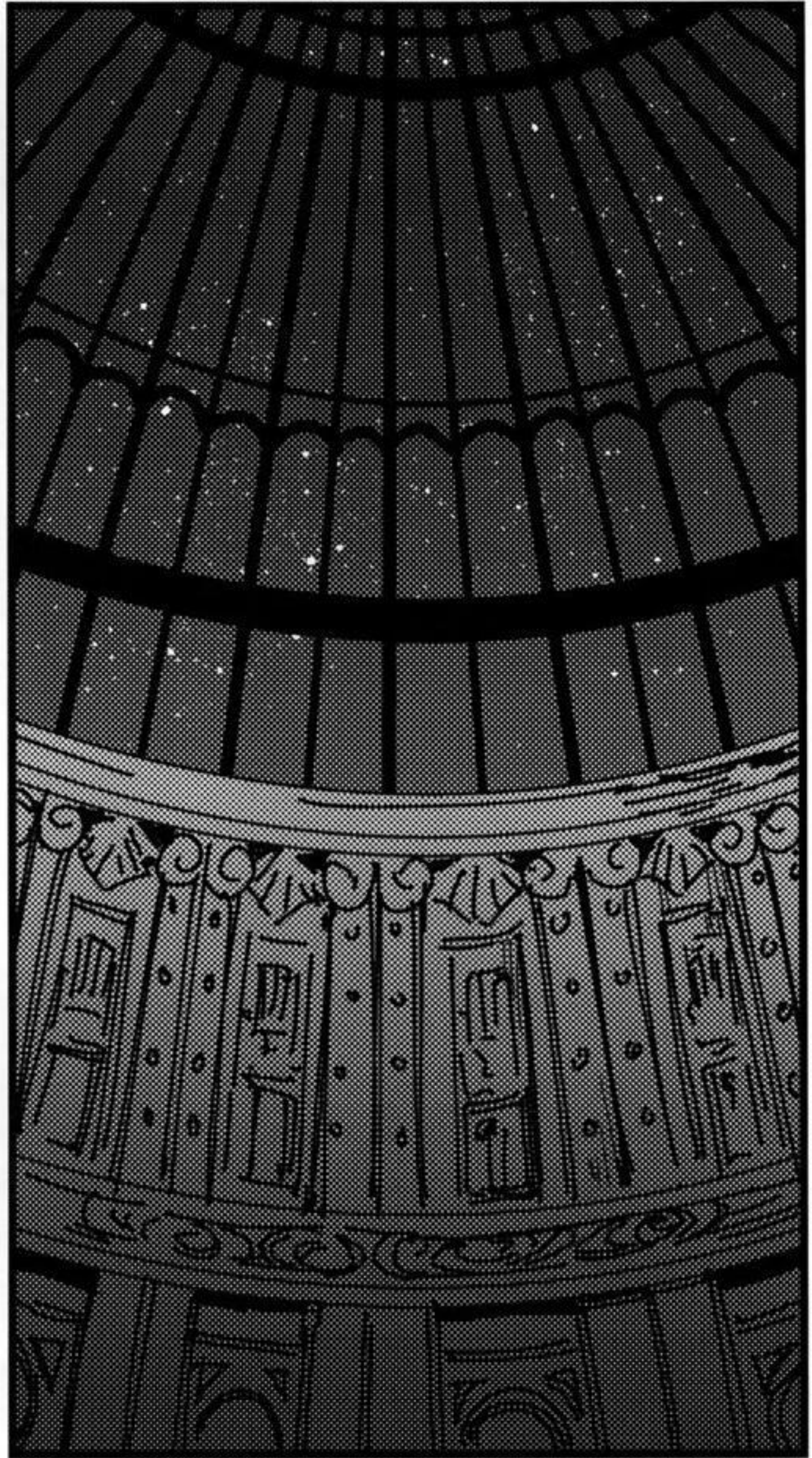
セイリオス…

ひどく慎重に
何かを噛みしめる
ように名を呼んだ

子供の輪郭を
覚えている



ソル





悪くねえなコレは…酒のサの字も知らねえ坊やもやつと

味の良し悪しを解るようになつたかよ

当たり前だろっ
お前と出会ってから
何年経つたと思つて
いるんだ

酒の嗜み方も
知らない子供の
ように言うな

私だつて今は
大人のの娯楽
くらいちやんと
知っているとも

ものを知らない
若造と侮られる
筋合いはない

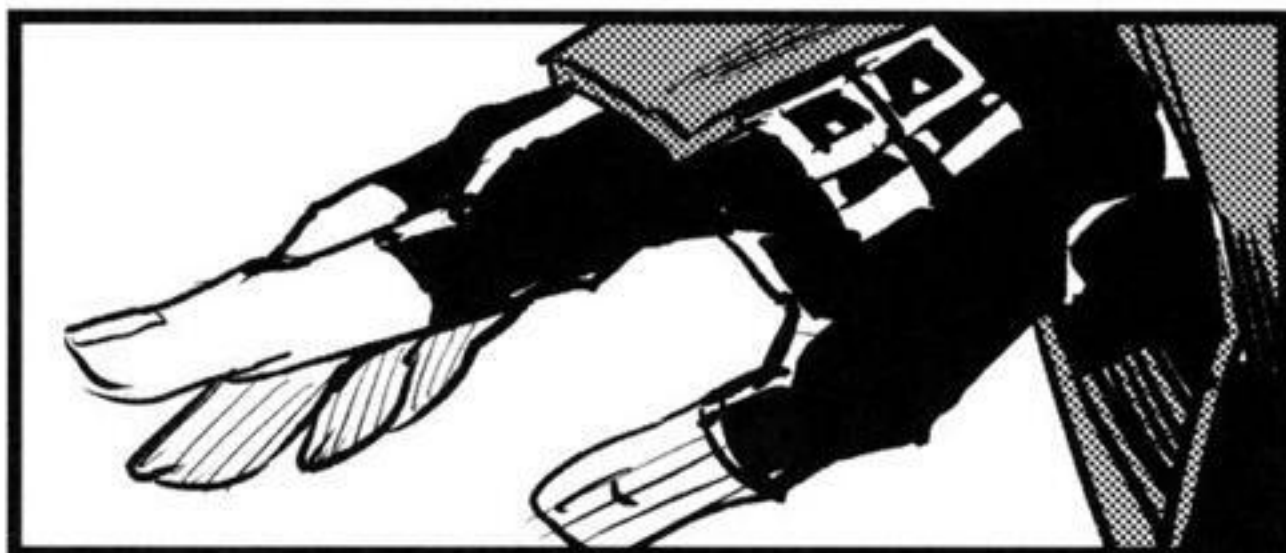
成る程
歳のことだいが
やられたなこりや

しかしまあ…
酔い方はやっぱ
ガキだろ



辛気臭えツラ
してんじゃねえ

テメエはそんな事で
揺らぐタマなのか？



おあつ
おい！

ガッガッ



ソル

お前は私が
立ち止まるとき
いつもそこについて

道を照らして
くれるんだな




：：ああ
違つとも




暗い夜の標と
なる程ひとときわ
明るく輝き

焼き焦がす
炎のように
熱い






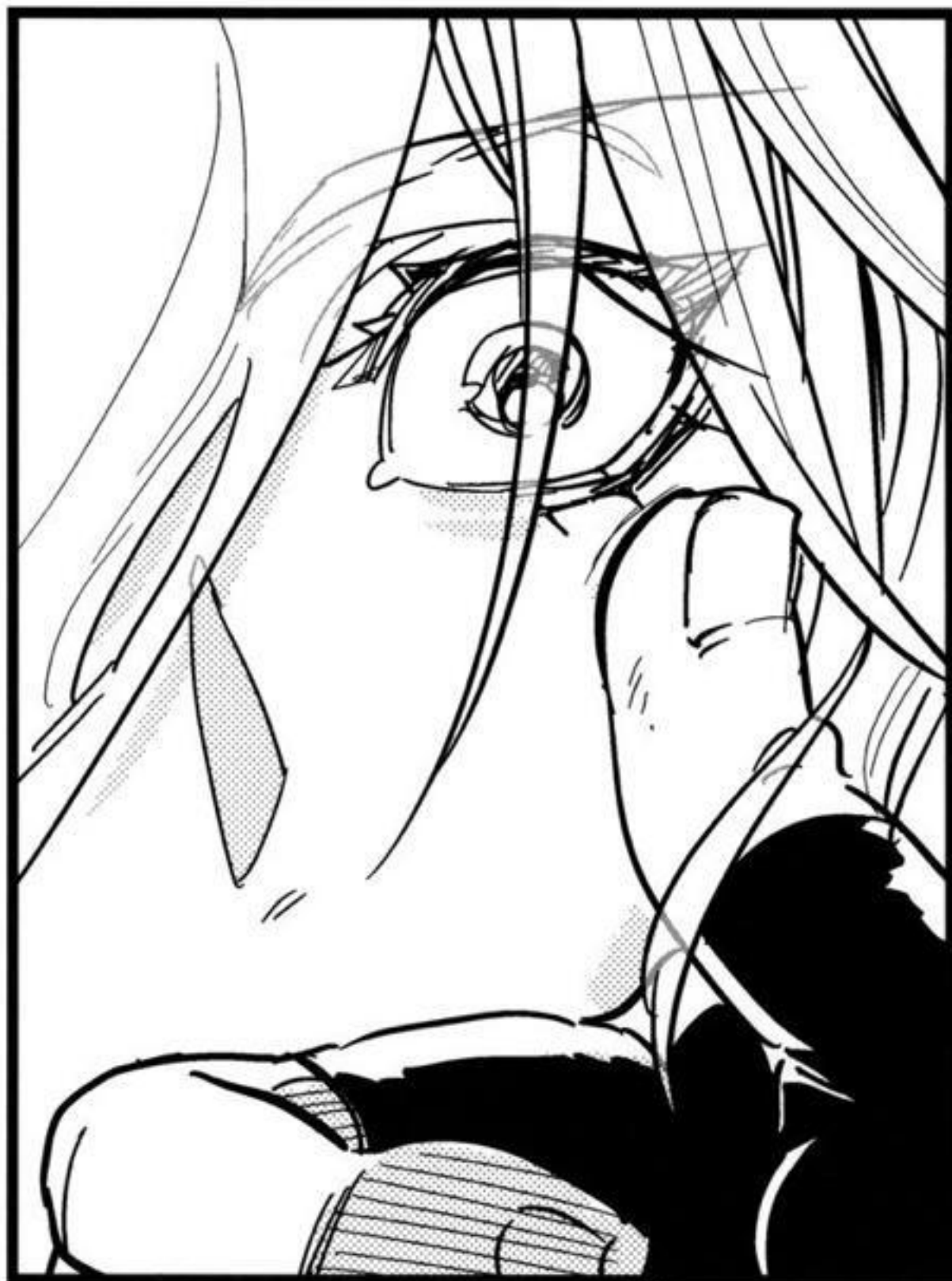
俺を星と重ねた
と言った顔が




あまりにも
あの頃のまま
だったから




手が伸びた





お前は私を叩きのめす時に容赦などなかった癖に

時折壊れ物を恐れるように私に触れたな



それは今も変わらないのか

なあソル

お前の眼に私はどう映っている？

昔名前を覚えて
やった星には

もう一つ意味がある

光り輝くもの、だ

そういうもの
として見て

そういうもの
として愛した

テメエは
遠くの星だ

一番目立つものに
例え映すほど
私が恋しかったか？

違えよ
青臭いこと抜かす
目がキラキラした
ガキなんざ

遠いところに
置けば十分だ
つて話だろうが

俺は、

ソル



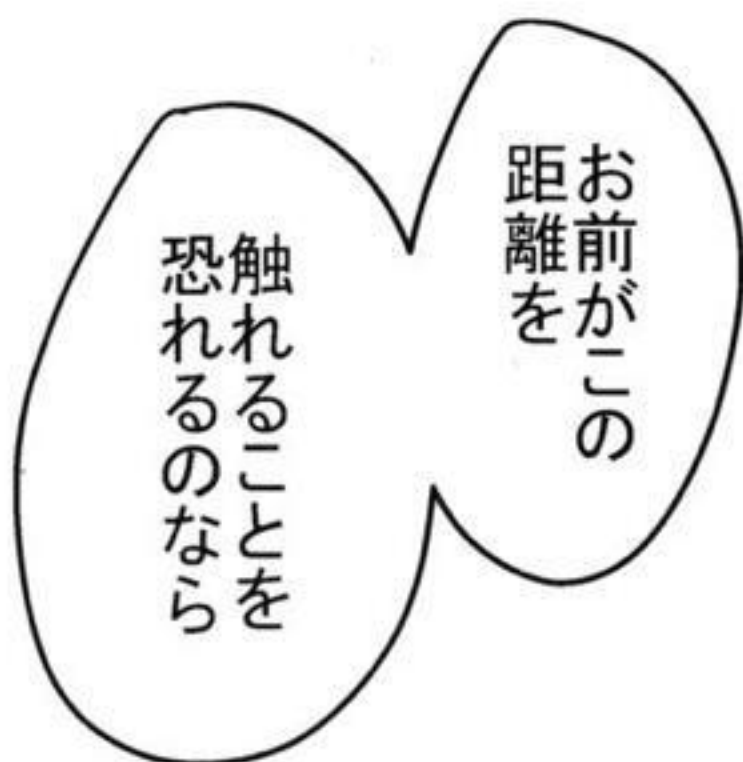
今こうしたいと
思ったから

理由はそれ
だけしかない



離せ

こりゃあ何の
マネだおい



お前がこの
距離を

触れることを
恐れるのなら

あの頃は必死で
追いかける事しか
許さなかったお前が

今は

「今は」何だと
言うんだ

致命的に
口を滑らせた
予感があった



私がお前に
触れればいい

それだけの
事だったんだ



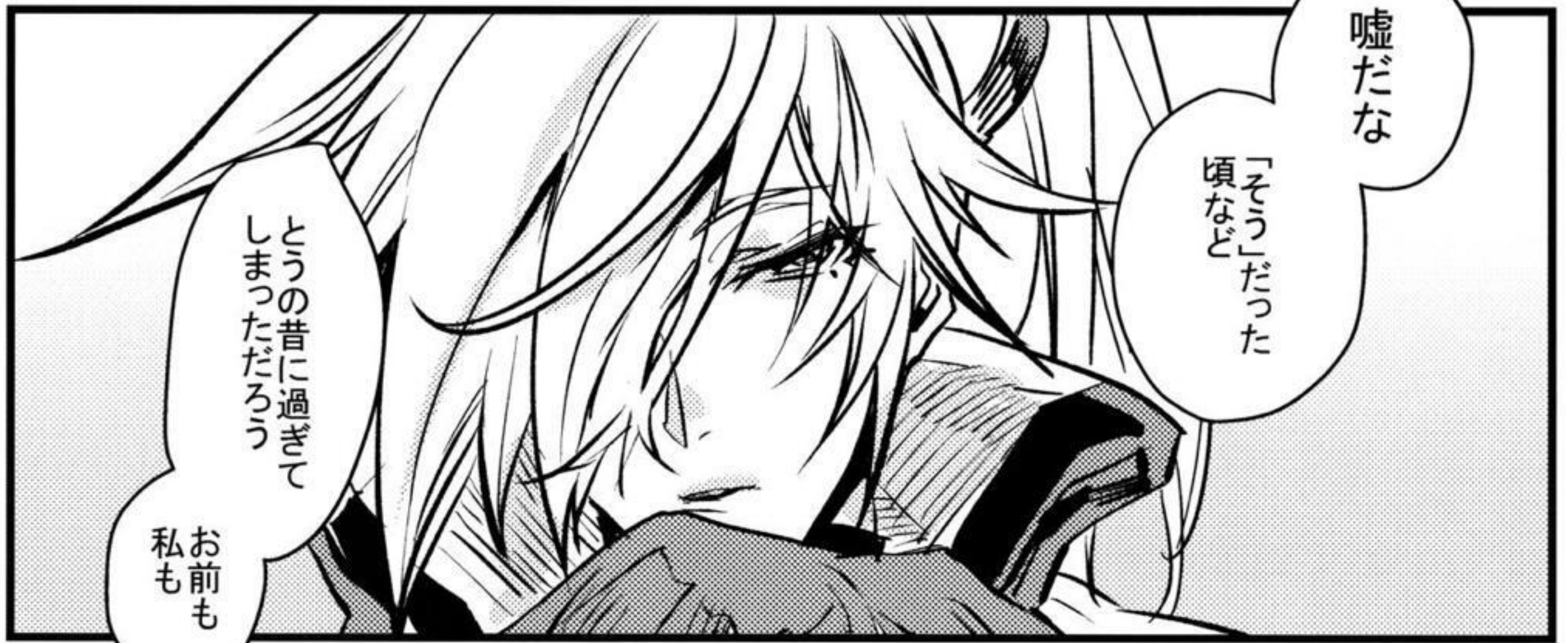
いつかは「君」に
戻ってくるものと
思えるから



んな事は無エ

俺はいつだって
テメエがくたばるまで

面合わさねえ
程遠くまで
行つちまえる



嘘だな

「そつ」だった
頃など

とうの昔に過ぎて
しまっただろう

お前も
私も



数多程の
離れるべき時を
見過ごしていた

持つべきでは
ない安らぎを
得る程に

近くを
許していた





ああクソ
ちくしょう

私たちと括りながら
情の形が同じでないと
気付かないそれを

遠くで見ても
足りればどれ程
良かったか

私たちはもう
離れるには遅すぎる

ただひたすらに
手遅れだった

は



私にこう
したかったのか？

気が付かない



ソルお前……

んだよ
文句は聞かねえぞ

気が付け



るせえ
黙ってる

察しろ
阿呆が

そうか

うん



かまわない

拒絶の無い
寛容を受け
また一つ



知間違えたのだと
知りながら

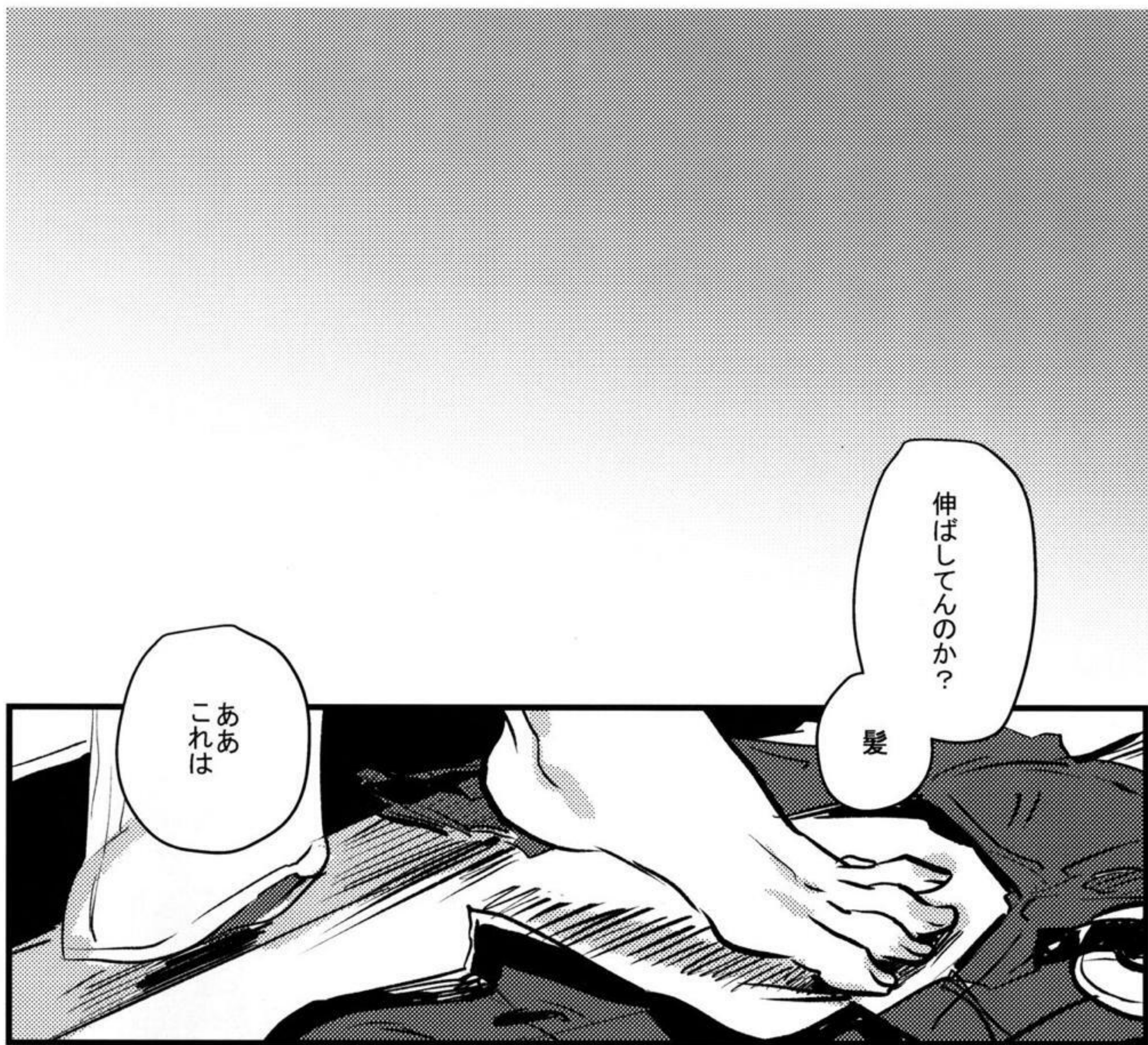
取り返しがつかない程に
戻る道を見失って行く





「...」

「...」



伸ばしてんのか？

髪

ああ
これは



てめえみてえな
童顔が何やってても
ヤサいだけだろうが

伸ばせば威敵が
出るんじゃないか
と思ってるんだが

威敵だア!!



・・・そうだな

そうかも
しれないな

お前は
私のことを
本当にも
知らないさ

お手に取って下さってありがとうございます。
同じ方を見ているようで全然違うところを向いているソルカイが
拗らせてxrdまで来てしまったような話が描いてみたくて
こんなことになりました。

今後が恐ろしいもののレベレのお話が楽しみです。
またどこかで何か出せたら…次の本でお会い出来たら幸いです。

SEIRIOS

2015/1/30

ミルクディッパー/道玄坂いとり
http://pixiv.me/kin_mokusei

印刷/ラック出版様



2015.12.30 / GuiltyGearXrd fanbook / Sol*ky